

# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

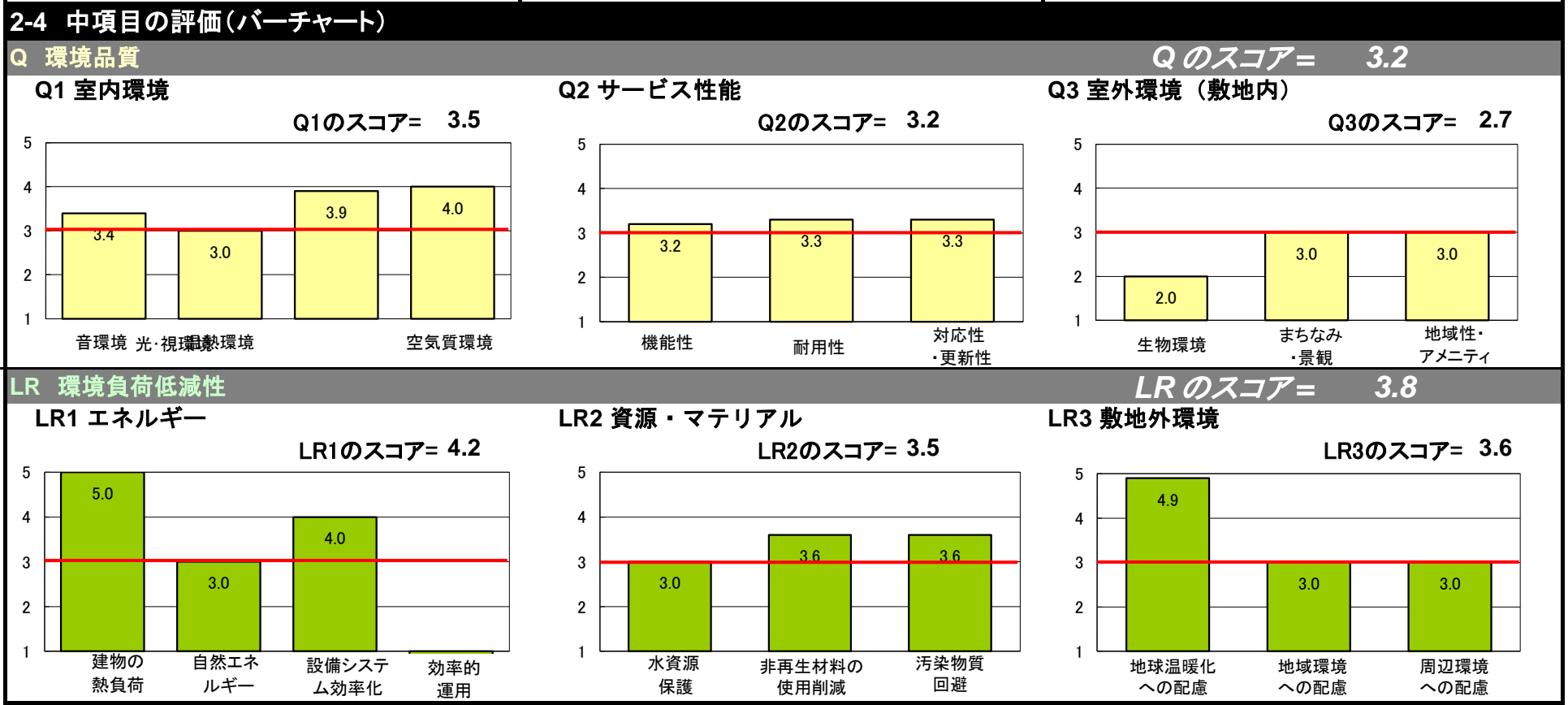
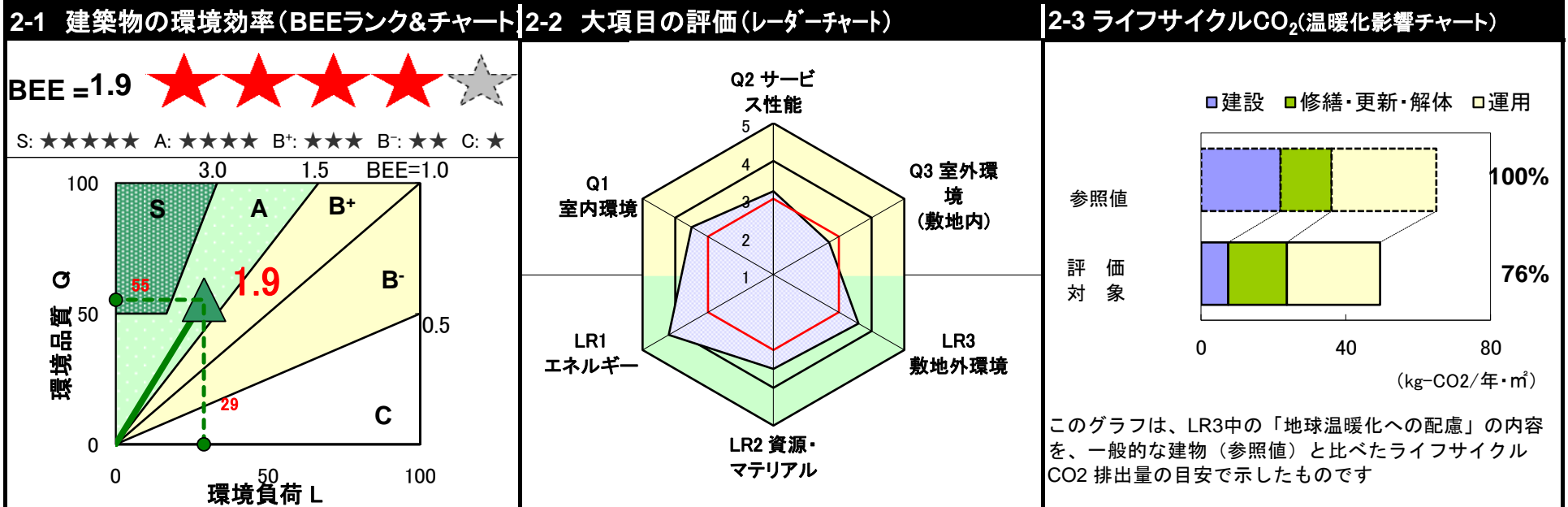
1. 建物概要					
建物名称	(仮称)ダイヤパレス白山駅前				
建設地	中央区 川岸町1丁目38番1				
用途地域	第二種住居地域、準				
建物用途	集合住宅				
竣工年	2015年8月 予定				
敷地面積	1,724.79 m <sup>2</sup>				
建築面積	537.93 m <sup>2</sup>				
延床面積	3,657.26 m <sup>2</sup>				
階数	地上12F				
構造	RC造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2014年6月10日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{55}{29} = 1.9$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 3.3		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	4.0
			更新性	Q2.3.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 3.0		耐震・免震	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 4.0		建物の熱負荷抑制	LR1.1	5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 4.0		節水	LR2.1.1	3.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	4.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.5		生物環境の保全・創出	Q3.1	2.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 3.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
1.住宅性能表示制度の劣化対策等級3を確保し長寿命化の取組みに配慮した。 4.住宅性能表示制度の省エネ等級4を確保し断熱性能の向上に努め、建物の熱負荷抑制に配慮した。 5.節水型の便器やリサイクル資材を採用し資源循環の取組みに配慮した。					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

# CASBEE®新潟

# 評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)



### 2-5 設計上の配慮事項

<p><b>総合</b></p> <p>周辺には公共施設や白山公園があり、緑豊かな自然に恵まれた立地で、それらの環境に配慮するとともに、共同住宅という用途上、室内環境にも配慮した。</p>	<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>シックハウス等の原因となる化学汚染物質の発生を低減するように配慮した。また、住戸の遮音性にも配慮し、遮音等級T-2のサッシを採用した。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>屋外に設置する設備機器等はメンテナンス性に配慮した。また、住宅性能表示制度の劣化対策等級3を確保するとともに、設備配管についても長寿命のものを使用するように配慮した。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>住宅性能表示制度の省エネルギー対策等級4を確保し、断熱性能の向上を図るとともに、高効率の照明器具を採用して、省エネルギーに配慮した。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>節水型の便器の採用により水資源保護に配慮した。また、有害物質を含まない材料を使用し環境負荷低減にも配慮した。</p>
<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>植栽等により敷地内温熱環境の向上を図った。また、共同住宅という用途上、特に防犯性にも配慮した。</p>	
<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>敷地外に与える影響を検討し、出来るだけ周辺環境に影響の出ないように配慮した。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される